

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
65

振興協議会だより

〔発行日〕令和6年2月28日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



第25回 米・食味分析鑑定コンクール国際大会 inつなんに出展してきました！

米の食味を分析、鑑定する国際大会がニュー・グリーンピア津南を会場に12月1日、2日の日程で行われました。お米が育つ環境はまさにジオパークのジオ・エコ・カルチャーそのもの。ガイド部会に協力いただき、2日間苗場山麓の地形や気候の資料、特産品などを展示し、紹介してきました。

ジオブースを見てくださった入れ込み人数としては、12月1日が500人、2日が400人ほどでしたが、外から来た人はこのだんだんになっている河岸段丘を珍しそうに眺め、足を止め、話を聞いてくれた人も。今や全国の自治体の約1割がジオパークに関係しているため、「ジオパーク」という言葉を全く知らない人は少ない印象でした。

今回は、大会実行委員会と協力し、昨年、商品開発部会が新たに認定した商品を中心に、認定商品の紹介も行いました。なかでも「クロモジ」の木から抽出したスプレーは特に女性に人気で、またガイドのみなさんからのアイディアで野生の「クロモジの枝」もあわせて展示、紹介することで話がはずみ、人が人を呼ぶスペースとなりました。

ガイドが一方向的に話をするのではなく、「どちらからいらっしゃいましたか？」と投げかけながら、中にはじっくり10分以上熱心にやり取りをしてくれた人もいました。国際大会の名に相応しく、大分、岐阜、岡山、富山、千葉、群馬、長野、新潟など全国から、遠くは台湾からお見えのかたもいらっしゃいました。

ジオパークに認定されているところは、自然環境豊かな地域であるともいえます。今回は、他地域との交流になったこと、新たに認知してもらえたこと、認定商品についてもしっかりアピールできたことが収穫でした。



認定商品紹介コーナー



能登半島地震の被災地(新潟市)に1/27～31まで派遣されました

この度の地震で被災されたみなさまには心からお見舞い申し上げます。

当ジオパーク(新潟県津南町・長野県栄村)は今から13年前、平成23年3月に最大震度6強という地震に遭った地域でもあります。今回の能登半島地震で、実は新潟県内でも液状化による被害が多数確認され、市職員だけでは対応が困難ということで、新潟県の被害市町村応援体制「チームにいがた」が招集され、平成23年長野県北部地震の際、津南町で住家被害認定調査を実施した経験のあるジオパーク担当職員のほか議会事務局長の2人で応援として行きました。

調査は、内閣府が定める「被害の被害認定基準」等に基づき、全壊、半壊等の「被害の程度」を認定する調査です。このほか、被災建築物応急危険度判定というものもありますが、そちらは判定員が建物による二次災害を防止するために青や黄、赤色といったステッカーを貼ります。

苗場山麓地域と違い、都市部特有の隣の住宅と密接している家や地域によって古い住宅と増築建物や土蔵が接続する大名屋敷のような建物が多く、調査はとても困難でした。

今回の液状化の被害は、苗場山麓G.P.の学術指導委員にもなっている新潟大学災害・復興科学研究所の卜部教授らの調査によると、信濃川の旧河道や、砂丘のすそ野などで被害が大きかったそうです。

そういった過去の災害や自然の力が形作った地形や地質を通じて、地球の歴史や環境について学ぶことは、災害リスク管理や防災意識の向上にも役立ちます。将来の災害に備えることも大事なジオパークの活動と改めて肌で感じました。

※石川県輪島市に栄村も「チームながの」として1名派遣しています。



住家被害調査の様子



室長の独り言(1)

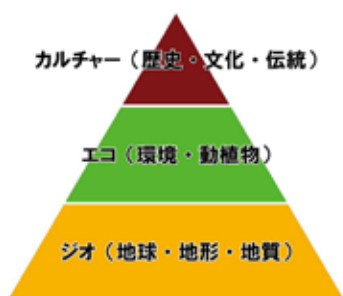
地域を分解するならば、大地（ジオ）、生態（エコ）、歴史文化（カルチャー）の3要素に分かれる。産業は歴史文化に包括され、農業は個別の農業文化とその歴史がある。また、農業を基幹産業と捉えるならば、

なぜ、農業が基幹産業になり得たのか。それには大地の形と成り立ち、すなわち地形と土壌、そして水脈が深く係わる。同様に林業も鉱業も、様々な産業の発生と展開の背景には、その大地あるいは生態が深く係る事実があり、また、私たちはそれを説明する責務がある。

大地と生態を含めて、私たちは「自然環境」と呼んでいる。例えば、大地を考えるならば、地球内部のマグマが火山活動で外に生み出されることから始まる。様々な生み出されかたがあり、それが岩や軽石になり、風に舞い上がる火山灰にもなる。激しい火山活動で舞い上がる火山灰が大気圏まで広がり、太陽光を遮断することで地球全体が冷えて、生態系に変化をもたらし、海流の流れさえ変えてしまう。このようなシステムで気候環境が変動し、その繰り返しが土壌形成の変化を生む。

盛り上がり、流れ下ったマグマや火砕流が冷えて固まり、大地の基盤を作り上げる。しかしながら、大地は生き続けていることから隆起や沈降、地震の発生などで創成期の大地は変貌する。さらに雨や雪、そして寒冷化に伴う河川低下は、浸食を則し、溪谷を深く刻む性質がある。この浸食は、形あるものを削り、変貌させ、その削られた岩などは河川に流れ込み、破壊され、研磨され、粒度の違いで偏在して再堆積する。上流から下流へ、堆積、再堆積の繰り返しで、砂や泥は川によって遠くに運ばれる。

日本一大きな新潟平野の一部である蒲原平野の形成は、千曲川－信濃川の上流部で発生した災害インパクトの歴史を背景に広大な深い谷が時間を掛けて埋積してきた結果なのである。少なくとも、苗場山



麓で生じた災害インパクトで流れ込んだ泥や砂の一部が、蒲原平野に再堆積している。

視点を変えるならば、火山活動を背景に生まれた岩石の鉱物的性質は、水の軟硬度とも深く関わり、地熱は温泉を育む。温泉の熱は、鉱物の性質を変える働きもある。これら火山活動は、地球が生き物である証であり、様々な鉱物を生み出す根源でもある。苗場山麓の鉱業史を探るならば、銅や硫黄、亜炭などを産出し、地域経済を支えた歴史がある。大地の高低差を旨く利用した水力発電も見逃すわけにはいかない。

苗場山麓に刻まれる中津川上流の切明で取水し、穴藤で落水させ、さらに沖ノ原の先端部に引き、また中津川の釜落としに落水させ、そこから正面段丘の下に隧道を掘り、十二ノ木の北側から一気に信濃川に落水させる。このようにダムを造ることなく、一回引き込んだ流水を3回落水利用させ、その勢いでタービンを廻して発電する。同じ手法で苗場山麓では7箇所の発電が大正年間から持続的に行われてきた歴史があり、現在なお同じ理屈で小発電計画が動いている。気候が生み出し、森と基盤層のクラックやガス空洞に蓄えた雪解け水や雨水が流れ下る川から取水して、地形落差を利用したエネルギー供給量は、苗場山麓全体で292.4%を上回るものであり、その大半は首都圏で利用されている実態もジオパークの大きな特性である。

苗場山麓に残された人類の歴史は、3万年前に遡り、本日まで営々とその歴史文化を紡いできた。この歴史を紐解くならば、日本人の形成や日本文化の基層、そして生き抜く智恵と技術の集積がある。

ジオパーク活動は、地域資源の保存と活用、すなわち保護に伴う活動であり、それは調査研究の成果に裏打ちされている。この調査研究の持続と成果を翻訳して、平易な言葉で伝えるガイドによるインタープリテーション活動が重要であり、副次的に観光とも抵触するのであろう。

今後も紙幅に余裕があれば、苗場山麓の自然環境を背景に蓄積された人類の智恵と技術について、独り言をつぶやいてみたいものである。



マグマが冷える際にできた柱状節理（逆巻の川原）



信濃川発電所

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

坪内 恵理子さん



秋山郷の暮らし（ガイド No.62 坪内 恵理子さん）

私が初めて秋山郷を訪れたのは、2016年11月初旬、紅葉が真っ盛りの頃でした。栄村秋山郷で地域おこし協力隊として活動する友人の案内で、小赤沢～屋敷～上野原を散策しました。天候にも恵まれ、なによりもまさに紅葉ベストシーズン。山全体が色づいて錦に輝く光景に圧倒されました。民宿の食事は美味しいし、温泉は豊かだし、大満足のうちに2泊3日の旅程を終えて大阪へ帰りました。

その7ヶ月後、秋山郷を案内してくれた友人と所帯を持つことになり、私は栄村の屋敷集落の住人となりました。

自宅の目の前がジオサイトである布岩で、それを見ながら洗濯物を干すという贅沢な生活がはじまりました。大阪の都市部から移り住んだ私にとって、屋敷での暮らしは驚きの連続でとても新鮮でした。想定をはるかに上回る積雪、屋根が飛ぶのじゃないかと思うほどの強風、家の前を横切るカモシカ。初めて訪れた時の感動は薄れるどころか日を追うごとに増していきました。

そのうちに、泉質の違う温泉が数々あるのはなぜだろう？一日のうちで山の表情が激しく変わるのはなぜだろう？などの疑問がわき、成り立ちをきちんと知りたいと思うようになりました。そして、自分の住んでいるところが「苗場山麓ジオパーク」であることを知り、ガイド認定検定を受検するに至りました。その後はガイド研修などを通して地学的・歴史的なことを教わり、現在も目下勉強中です。

成り立ちを学んでみると、日々の暮らしをさらに豊かに感じるようになりました。暮らしに必要な知恵は、秋山郷の先輩方からたくさん学びました。雪道の歩き方、こんにゃくの作り方、山菜のアクとりの方法、などなど数え切れません。教えられた通りにしたつもりでも中々うまくいかず、何度も聞きにいきました。書籍やインターネットからは得られない大切な知恵を教えてもらえたおかげで、少しずつ秋山郷での暮らし方を身につけることができました。

諸事情により現在は栄村を離れてしまいましたが、今でも秋山郷での暮らしを懐かしく思い出します。私が苗場山麓ジオパークで好きなのところ。それは、豊かな秋山郷の自然と暮らす人の暖かさです。



お知らせ

雪散歩2024～大地と人が築いた眺め～ スノーシューをはいて大地を感じる旅をしてみませんか？ 参加費：1人 4,000円
川の展望台コース：3月10日（日）9：00（津南駅集合）～12：00【申込・お問合せ】津南町観光協会TEL：025-765-5585



突撃しよう!となりのジオ便り～おおいた豊後大野ジオパークからこんにちは～(おおいた豊後大野ジオパーク 神田 卓弥)

おおいた豊後大野ジオパークは、九州の東部、大分県の南西部にあります。豊後大野市全域をエリアとし、平成25年に日本ジオパークに認定されました。エリアの中央を九州屈指の河川である大野川が流れ、周囲をくじゅう連山、阿蘇山、祖母・傾山系の山々に囲まれた緑豊かな大地です。また、大分県竹田市、佐伯市宇目町、宮崎県高千穂町、日之影町、延岡市とともに、平成29年に祖母・傾・大崩ユネスコエコパークにも登録されています。

今からおよそ9万年前と12万年前に起きた阿蘇火山巨大噴火の火砕流は、豊後大野の大地を広く覆い、やがて冷えて溶結凝灰岩となりました。冷えて固まる際に縦に細く割れてできた柱状節理が崩落し、滝や深い谷を数多く形成しました。なかでも東洋のナイアガラとも呼ばれる原尻の滝は、田んぼが広がる平地に、幅120m高さ20mにもわたって柱状節理が崩落してできました。平地にあることから、滝を正面から、横から、下から、さらには上からといろんな角度から見て楽しむことができます。また、すぐそばには道の駅があり、駐車場から徒歩2分ほどで滝が現れ、とてもアクセスしやすくイチオシのスポットです。

加工しやすい特徴を持つ溶結凝灰岩を利用した石橋もエリアには多く見られ、豊後大野市は市町村単位で全国最多の112基の石橋が架けられています。今年は歴史・文化のサイトとなっている虹潤橋が完成から200年、同じく出会橋が完成100年を迎えます。どちらの石橋も深い谷を渡るために長い年月をかけて造られました。

2021年には、ジオパークとエコパークの大自然を生かしたアウトドア・サウナを観光資源とするため、豊後大野市が「サウナのまち」を宣言しました。川のすぐそばでサウナに入り、川を水風呂として使用し、そのまま外気浴。自然を全身で感じることで、自然と共生した持続可能な社会の実現にも取り組んでいます。

まだまだ紹介しきれませんが、おおいた豊後大野ジオパークには食や文化などたくさん見所があります。ぜひ現地にお越しいただき、全身で感じていただきたいと思います。苗場山麓地域の皆さまを待ちよるけん、来ちゃくれ～。



原尻の滝



出会橋・轟橋



日本ジオパーク周遊アプリ「ジオパークな旅」とともに全国のジオパークを巡ろう！

「ジオパークな旅」は、日本全国のジオパークを周遊することを目的とした位置情報を利用するスタンプラリー形式のスマートフォンアプリです。

各ジオパークには、1か所以上の「周遊地点」が登録されています。周遊地点を1か所以上訪問し、SNSで「#ジオパークな旅」（ハッシュタグを忘れずに）と投稿することで、周遊したジオパークの数に応じて制覇証明書（デジタルデータ）が授与されます。訪れた地域数（5、10、20、30、40）や完全制覇証明書などを申請することで入手することができます。周遊地点は日本ジオパーク46地域それぞれに魅力的なみどころが登録され、苗場山麓ジオパークでは厳選された【1～10】地点が登録されています。農と縄文の体験実習館なじもんや栄村震災復興祈念館「絆」。苗場溶岩流の柱状節理石落とし、切明温泉の源泉湧出点は特におすすめです。

●スマートフォンアプリ「ジオパークな旅」配信期間：2023年7月24日から3年間



Google Play



App Store

ジオパークな旅
詳細について



【苗場山麓ジオパークの周遊地点についてのお問い合わせ】苗場山麓ジオパーク推進室
【アプリシステムやルールについてのお問い合わせ】日本ジオパークネットワーク事務局

TEL：025-765-1600
TEL：03-3219-2990